

令和4年度進行管理・評価シート
磐梯町歴史的風致維持向上計画（平成28年1月25日認定）
（最終変更令和2年5月25日）

■進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 計画の実施に向けた推進体制		1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		-
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 史跡慧日寺跡整備事業		2
2 歴史的建造物保存事業		3
3 歴史的文化遺産調査事業		4
4 歴史的まちなみ防災対策事業		5
5 まちづくり団体設立・育成支援事業		6
6 伝統文化財継承事業		7
7 磐梯町景観計画策定事業		8
8 歴史的まちなみ整備事業		9
9 慧日寺参道整備事業		10
10 慧日寺門前市整備事業		11
11 花川自然石護岸及び水路改修事業		12
12 大寺城の調査・保全整備事業		13
13 大寺地区歴史的風致保全事業		14
14 史跡慧日寺跡へのアプローチ整備事業		15
15 大型バス迂回路整備事業		16
16 磐梯山慧日寺資料館リニューアル事業		17
17 磐梯町の文化財を紹介する冊子とマップ作成事業		18
18 歴史を活かしたまちづくり推進事業		19
19 歴史的風致紹介ガイド育成事業		20
20 広域連携推進事業		21
21 道の駅情報発信機能充実事業		22
22 史跡慧日寺跡と道の駅ばんだいを連結するアクセス道の整備		23
23 歴史まちづくり推進機構の設立		24
24 磐梯町歴史文化読本作成事業		25
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の修復・整備に関する取組み		26
2 文化財の保存・活用を行うための施設に関する取組み		27
3 文化財の周辺環境の保全に関する取組み		28
4 文化財の防災に関する取組み		29
5 文化財の保存及び活用に活用の普及・啓発に関する取組み		30
6 埋蔵文化財の取扱いに関する取組み		31
7 住民、NPO等各種団体の状況及び今後の体制整備の取組み		32
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 会津妖怪かわら版、声明の公演が開催されました。		33
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 史跡慧日寺跡を活用したイベントの実施		34
■法定協議会等におけるコメントシート(様式2)		35

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	令和4年度
		現在の状況
計画の実施に向けた推進体制		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容

本計画の推進体制は、「政策課」が事務局となり、庁内各課で組織する「磐梯町歴史まちづくり庁内推進会議」において計画推進を図り、庁内の連絡調整を行うものとする。また、国、福島県等の関係機関との協議を行うとともに、相談や支援を得る。

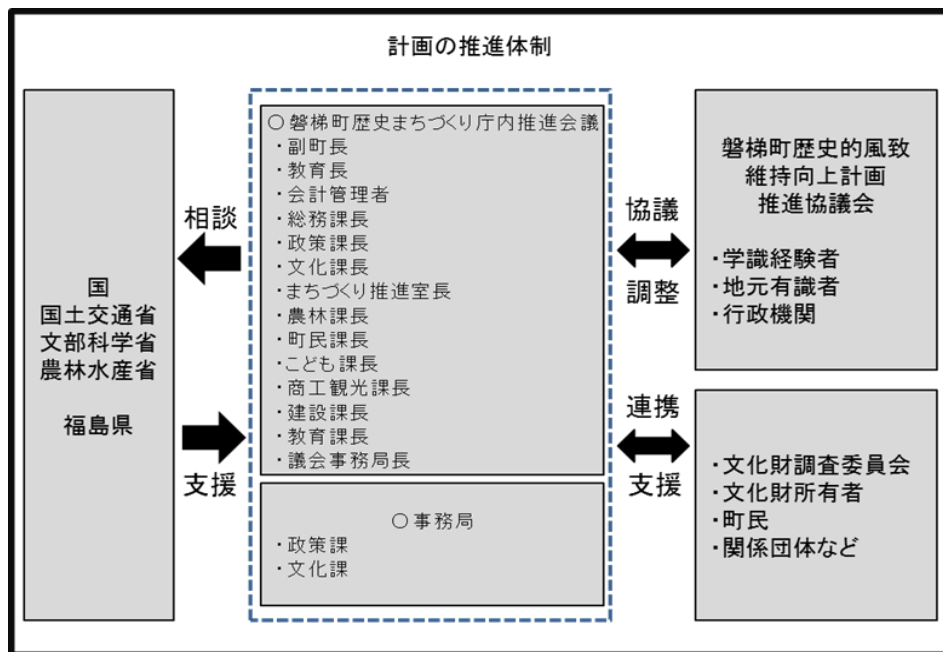
歴史まちづくり法第11条に基づき設置した「磐梯町歴史的風致維持向上計画推進協議会」は事務局と連携し、計画の実施に関する協議、連絡調整を行う。なお、必要に応じて文化財所有者、管理者や文化財等の保存活用を行う町民、関係委員会や団体と連携し、支援を行う。

史跡慧日寺跡調査・保存・整備指導委員会においても、区域内の一体的な整備のため、まちづくりにおける情報共有や助言・指導を仰いでいる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



第9回磐梯町歴史的風致維持向上計画推進協議会
書面表決開催

項目	評価対象年度	令和3年度 現在の状況
史跡慧日寺跡整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成15年度～令和7年度

支援事業名 町単独事業、国宝重要文化財等保存活用事業

計画に記載している内容

- ・平成15年(2003)度から着手している史跡整備事業の継続
- ・史跡としての案内表示の充実 など

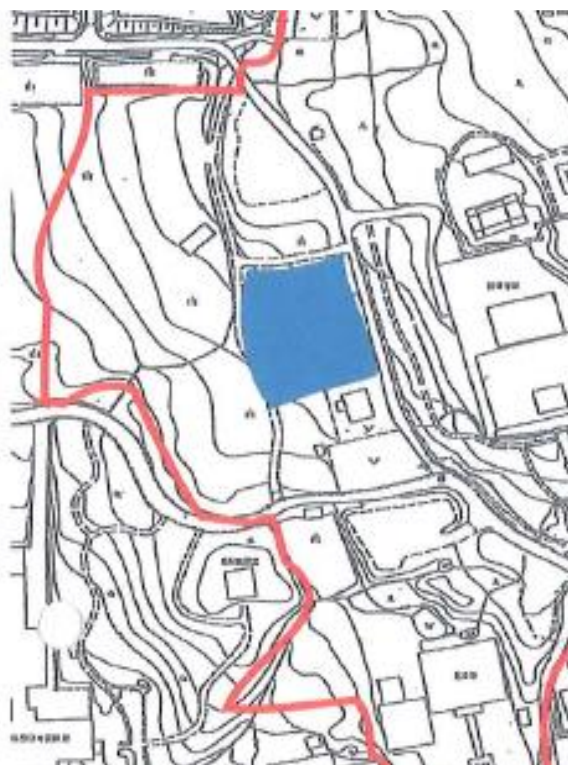
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

○史跡指定地の本寺地区のうち、字本寺八幡地内の約1,000㎡を発掘

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

史跡慧日寺発掘事業



凡	例
	史跡指定範囲
	調査実施箇所

航空写真



現地写真



評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
歴史的建造物保存事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～令和7年度	
支援事業名	集約促進景観・歴史的風致形成推進事業(H28～29年度)街なみ環境整備事業(R1～R5年度)	
計画に記載している内容	歴史的まちなみを確保するために、歴史的風致形成建造物及び付随する塀、石垣などについて、地域の歴史的な技術や手法を踏襲し、歴史的まちなみに調和するよう建物の外観等の修景を行うとともに、改修等に対して支援を行う。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
歴史的風致形成建造物に指定した建造物の修理等に要する費用の一部を助成し、所有者等に対する支援を実施。 ○歴史的風致形成建造物指定件数:計4件 ○歴史的風致形成建造物 平成28年度修理実施棟数 2棟 ○歴史的風致形成建造物 平成30年度修理実施棟数(H29繰越) 2棟 ○歴史的風致形成建造物 令和元年修理実施棟数 1棟 ○歴史的風致形成建造物の修理に向けた建造物調査 令和2年調査棟数 1棟 ○歴史的風致形成建造物の修理に向けた建造物調査 令和3年調査棟数 1棟 ○歴史的風致形成建造物等の修理修景指針提案作成 令和4年作成		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	町と所有者の意見の相違や資力等もあるため、作成した指針提案に基づき、十分に意見交換を行いながら調整する必要がある。また、所有者への歴史的建造物の保存価値を十分理解して頂き修理に取り組む必要もある。	
状況を示す写真や資料等		
磐梯町歴史的風致維持向上区域における 歴史的建造物等の修理修景の指針提案 2022年6月 東北工業大学 建築学部 建築学科 准教授 中村 琢巳  図2-6 下見板張りや半間仕・縁地間の小屋による3階外観  図2-7 縁板、小屋は縁板で仕上げる上壁に半間仕の表い・形式をとめる本屋 【明治時代の外観様式】 現存する地区内の民家のほとんどは、昭和から近年の新建材によるものに至る改築が大きい。明治時代の当地区の主屋の外観様式をとめる民家はみられない。しかしながら、歴史的価値を保つ修理・修景を進めるためには、明治時代から昭和、そして現代にいたる、特に外観の建築様式の変遷の把握が重要となってくる。以下で、地区に現存する建物の踏査から、明治から昭和にかけての変化についてみていく。 現存する主屋のほとんどはトタン葺きであるものの、明治時代当初は寄棟造り茅葺きであったことは明らかである。それを昭和前期から中間にかけて、トタン被覆へと改造が施されたと推察される。 一方、外壁について、伝統様式をとめる現存民家を見ると、高く9尺程度まで簾子下見板張りとして、上層の小屋は半間ごとに柱を真壁として露出し、壁は漆喰仕上げとする形式が多くみることができる。場合によってこの外壁の伝統様式が、近年に新建材で被覆される。しかしながら現存民家および古写真を検討すると、この外壁構成もトタンと同じく、昭和前期から中間にかけての改造によるものと推察される。それ以前は、小屋は土壁(荒壁ないし中塗り仕上げ)で漆喰は施さずに、腰壁は板を9尺程度高く張る形式の一方で、下見板形式ではなく、縁板を半間ごとくしていく形式が現存民家や古写真で確認される。 また外観の建具については、現存する民家はほぼアルミサッシに交換されている。一方、古写真を見ると、当国で多用される腰高障子の雨戸が多かったとみられる。 4. 修理・修景の留意点について 以上を踏まえて、今後の修理・修景の留意点として、以下のようにまとめられる。 1) 事前の歴史的調査と歴史的価値の復旧 本地区に現存する歴史的建造物の伝統的仕様は、時代ごとに変遷をみせるものであり、修理・修景に際しては、その建造物の建築年代とその後の改修履歴を把握したうえで、景観的・歴史的に価値ある段階へと蘇らせる設計が求められる。そのようなプロセスを経ないと、いくつもの年代が重層する景観の歴史性は損なわれることとなってしまう。 たとえば今回、本地区の主要な主屋は明治時代の新築を昭和間に改築した姿が伝わる点を指摘したが、こうした民家の修理に際しては、昭和期の改築もある程度、歴史的価値の構成要素に含めた修理設計の方針が考えられる。 歴史的に配慮した景観整備のためには、修理修景工事の事前に、建造物の歴史調査が必要である。今後も継続して、実測調査の蓄積を増やしていきたい。特に、江戸時代の古式の主屋と、昭和初期の新しい形式の主屋については、平面形式や屋敷構えの特徴で不明瞭な点が多いため、調査蓄積が求められる。 2) 立地と屋敷構えの配慮、南北軸から東西軸による、回遊性および魅力向上 主屋にとどまらず、蔵や小屋、また石垣や樹木、祠、水路が複合する屋敷構えが、地区ごとに趣や個性があり、本地区の景観の魅力を広げる要素であることを指摘した。地区ごとの多様な屋敷構えを評価し、整備をはかっていることは、来訪客にとっては本地区の回遊性を高め、また宗教、生活文化、自然との共生などがつくる文化的価値を幅広く体感できる効果をもたらすと考えられる。 3) 水、風、雪などの自然がつくる景観と伝統工法の振興策 飯坂家住宅で指摘したとおり、本地区は水路が主屋ザシキと対応する龍貫庭園をつくりだし、また流い場や間と連携した生活空間を点にさせていく。今後も水路空間の調査を継続し、庭園および生活文化の双方の視点から、水が生み出した歴史的景観の復旧をはかることが考えられる。門前通りの東西敷地での屋敷構えの違いなど、本地区は厳しい西風が、住宅や屋敷構えの形式に影響を及ぼしている。冬季の積雪が、雪囲いや雪除きの設置などの空間構成とも関わっている。こうした風害・雪害への対応は、もちろん現代工法・素材による対応も必要箇所である。一方で、屋敷構えの工夫や伝統的な雪囲い等、歴史的な対応が生み出したデザイン・空間への配慮も大切である。伝統工法と現代工法をバランスよく利用した風害・雪害の対策で、居住性向上をはかる事例検討が今後必要である。		

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
現在の状況			
歴史的文化遺産調査事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	

事業期間 平成27年度～令和7年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容

- ・町内に点在する歴史的価値がある建造物・石垣・水路等、十分に調査されていない歴史的文化遺産の実態を把握し、適切に保全、利活用を推進するため、歴史文化遺産の調査を行う。
- ・慧日寺参道及び周辺地域の整備に向けて、まちなみの調査を実施する。
- ・実態が把握されていない歴史的建造物等について、所在や建築年代、建築技法等の悉皆調査を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本寺地区の特徴でもあり、歴史的価値の高い石垣について調査を行った。

平成30年度 3宅地分実施

令和元年度 14宅地分実施

令和2年度 2宅地分実施

令和3年度 1宅地分実施

令和4年度 1宅地分実施

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	石垣調査にあたり調査方法マニュアルの検討が必要である。

状況を示す写真や資料等

本寺地区石垣調査カード(上野邸)	
所在地	大字磐梯字本寺下 4930
敷地内位置	①敷地西側町道沿い、②敷地入口北側、③敷地北東側町道沿い、④敷地北西側町道沿い
方向	①南北方向、②東西方向、③東西方向、④東西方向
積み方	①切石切組積、南端部セメント補強、②切石+割石による粗い組積でセメント補強、セメント接着積に近い、③切石切組積、④粗い切石切組積(隣地鈴木邸西側石垣は多角形自然石+割石+切石混用の組積)
規模	全長①上端 14.2m、下端 14.4m、②上端 5.8m、下端 6.0m、③上端 9.45m、下端 7.1m、④上端 2.7m、下端 2.8m、(東側水路部隣地 4918 鈴木邸西側石垣下端 12.5m) 高①北端①④角部 0.43～0.60m(角石上面傾斜)、南端①②角部 1.1m、 ③東端部付近 1.3m(コンクリート部斜面の西側)、④西端 0.85m(段差部分上の石垣部分)、④東端部 0.45m
積石形状	①多角形+長方形切石、南端角部のみ大形長方形切石を横位で使用、②多角形切石+多角形割石混用、③多角形+長方形・方形切石、④多角形切石
石個体寸法	①安山岩 20～30cm×40～60cm大、角部のみ 30～40cm×80cm大、②安山岩 20～30cm×30～50cm大、③20～30cm×40～50cm大、④20cm×20～30cm大
石材質	主用、角部のみ 60cm×60cm大
備考	隣地 4918 鈴木邸西側③-1 石垣 20cm×50cm大の不整形角切石主用、③-2は 30cm×50cm大の長方形切石主用 調査日時令和元年11月29日

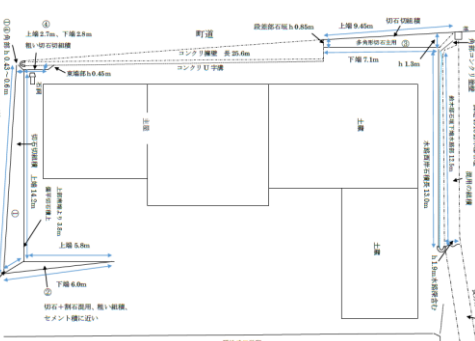
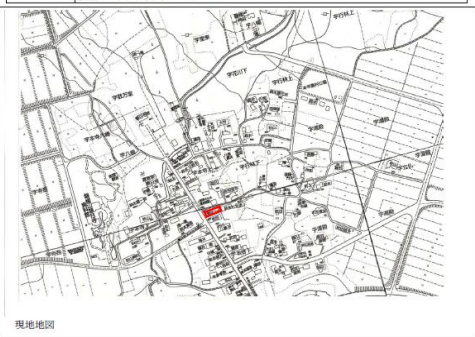


写真9 敷地東側の隣地鈴木邸石垣(北西より)



写真10 敷地北東角・隣地鈴木邸境



写真11 石垣東端・鈴木邸石垣角部(南より)



写真12 石垣東端部付近の状況



写真13 石垣東側～中央部(南東より)



写真14 石垣西端部(東より)



写真15 石垣全景(北西より)



写真16 石垣と敷地北側の状況(西より)

本寺地区 石垣調査カードの作成

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
歴史的まちなみ防災対策事業		☐ 実施済 ☐ 実施中 ☒ 未着手	
事業期間	平成30年度～令和7年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	歴史的建造物が数多く立地する本寺地区を中心として、放水銃や消火栓、歴史的建造物の耐火性向上など地域防災施設の整備を行い、地域の防災性を高める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		本事業は参道に埋設されている水道管からの取り出しが必要となり、慧日寺参道の整備に合わせて施工することが効率的であることから事業期間を延期。	
状況を示す写真や資料等			

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
まちづくり団体設立・育成支援事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～令和7年度	
支援事業名	町単独事業	
計画に記載している内容	慧日寺の歴史を継承し、保存活用を行うまちづくり団体の組織化や育成を図り、保全、利活用に向けた取組みを活性化させるとともに、活動経費の一部について助成金を交付し支援する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
本寺地区において、地区住民が主体となったまちづくり団体の設立に向けた地元説明会を開催し、問題提起をしながら意識向上を図る計画であったが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、説明会を開催することが出来なかった。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
伝統文化財継承事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成28年度～令和7年度		
支援事業名	地方創生加速化交付金事業、町単独事業		
計画に記載している内容	・祭礼や地域の民俗芸能の活動を促進するため、用具等に対して助成を行う。 ・江戸時代以来途絶えている明神舞や現在活動を休止している火伏せの火渡りなどの祭礼の再興を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
県指定重要無形民俗文化財「磐梯神社の舟引き祭りと巫女舞」の実行委員会に対して、地域の民俗芸能に対する価値の認識と継承保存を促進するため、助成制度の充実を図っている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	令和元年度までは地元世帯数の減少などにより、祭事運営の経費が負担となり伝承に支障をきたしつつあることから、町では文化財保存伝承補助金を交付、また、長年、担い手不足が深刻な問題となっていた巫女舞が、新たな形の保存団体として発足した。 しかし令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、両祭事とも中止となった。		
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
磐梯町景観計画策定事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成28年度～令和7年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容 慧日寺跡を含む文化財と磐梯山の自然との一体的な景観形成の方針の確立に向けて、本町独自の景観計画を策定する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

景観計画策定に向けての土壌づくりとして、地区懇談会を開催し住民の歴史まちづくりの気運の醸成を図った。
平成31年3月には、まちなみの良好な景観形成を図る目的として、「磐梯町本寺地区まちづくり協定」を制定した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	景観計画策定に向け、引き続き地区との協議を行っていく。

状況を示す写真や資料等

磐梯町本寺地区まちづくり協定

平成31年3月

本寺地区行政区

平成31年3月24日に制定されたまちづくり協定

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和4年度	評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況
歴史的まちなみ整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成27年度～令和7年度	
支援事業名	町単独事業、街なみ環境整備事業(令和元年度～令和5年度)	
計画に記載している内容	歴史的まちなみを確保するために、歴史的風致形成建造物以外の歴史的な建物や塀、石垣などについて、地域の歴史的な技術や手法を踏襲し、歴史的まちなみに調和するよう建物の外観等の修景を行う。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
歴史的風致形成建造物に指定されない建造物の修理等に要する費用の一部を助成し、所有者等に対する支援を実施。 ・令和2年度 住宅外壁修景、1件 ・令和3年度 土蔵外壁修景、1件・住宅外壁等修景2件 歴史的まちなみに調和するよう町が所有している工作物等の修景を実施。 ・カーブミラー修景実施(平成28年度、2基 ・ 平成29年度、2基 ・ 平成30年度、1基) ・地区住宅案内看板修景実施(令和元年度、1基) ・個人所有板塀修理実施(令和元年度、1件) ・町所有ガイダンス広場整備(令和3年度、1件) ・史跡名勝案内板整備(令和4年度、1件)		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		

状況を示す写真や資料等



史跡名勝案内板整備(令和4年度)



項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
慧日寺参道整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	

事業期間 平成30年度～令和7年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容

慧日寺の開基以降、中世には整備されていた参道の歴史的な価値を広く町民と共有するため、慧日寺参道及び恵日寺へのアプローチ道路において、無電柱化、参道沿いの水路整備、参道の美装化など景観改善を推進する。また、整備にあたっては生活交通に支障を来さないよう生活用道路を含めた交通誘導について検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

参道は平成29年3月、福島ブロック無電柱化協議会事務局会議において「事前協議要検討・要請者負担で合意」と決定。現段階では、無電柱化の手法が決まっていないことや、地区の合意形成が得られていないこと、技術的・法的にクリアしなければならない諸条件がある。
 なお恵日寺へのアプローチ道路整備は令和2年度に着手、美装化による景観向上が図られた。

状況を示す写真や資料等



参道無電柱化予定場所



無電柱化現地調査の様子



恵日寺アプローチ道路

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度 現在の状況
慧日寺門前市整備事業		☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成28年度～令和2年度

支援事業名 集約促進景観・歴史的風致形成推進事業、町単独事業

計画に記載している内容 慧日寺参道沿いの民家を活用し、歴史的景観を象徴するファサードを持つ地域活性化の拠点となる多機能型施設を整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史的風致形成建造物に指定した旧吉田家住宅の改修工事を実施(平成29年度～平成30年度)
 土地:磐梯町大字磐梯字本寺上4962番地 A=1774.07㎡
 建物:居宅 木造草葺平屋建 A=195.04㎡(築140年)
 「徳一の里 庄九郎亭」として、平成31年4月 OPEN
 ・軽食の提供、貸しスペース、観光案内所を兼ねた地域のにぎわいを創出するための施設として展開している。
 旧吉田家住宅に隣接した発掘調査跡地をイベント広場に整備(令和3年度)

進捗状況 ※計画年次との対応

☒ 計画どおり進捗している
☐ 計画どおり進捗していない

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

新型コロナウイルス感染症の影響により、開館日の減少や開館時間の短縮、感染予防対策を図りながらの営業を行った。結果、利用者数は大幅に激減した。
 なお令和4年度から町内各種サークル団体が日替わりで祭事を来訪者に提供している。

状況を示す写真や資料等

古民家お休み処 庄九郎亭
日替わり催事メニュー

火曜日は
クラフト体験
こいのぼり飾り
500円

第4水曜日は
まるこ珈琲店の
自家焙煎珈琲
550円～

第2・4日曜日は
会津弁の昔話
無料

第2・3水曜日は
パッチワーク
体験
小物入れ300円～

変更となる曜日もありますので裏面のカレンダーにて日程をお確かめください。

体験は予約不要です。
古民家の見学だけでも歓迎です。
お気軽にお越しください♪

古民家
落ち着く雰囲気
ほっと一息
セルフカフェで
ギョーザや
ショウブも充実

無料駐車場は
たくさん
あります。

庄九郎亭

磐梯町
磐梯駅
磐梯川

日替わり催事パンフレット

平成31年4月にOPENした旧吉田家住宅
「徳一の里 庄九郎亭」



パッチワーク体験



項目		評価対象年度	令和4年度
			現在の状況
花川自然石護岸及び水路改修事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成28年度～令和7年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)、町単独事業

計画に記載している内容 現在コンクリートで舗装されている本寺地区内を流れる花川の河川改修を実施するとともに参道沿いの水路や生活水路などについて防災にも配慮した上で改修を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史的景観を再生するため、本寺地区を流れる普通河川花川の護岸改修整備詳細設計及び3つの橋梁改修設計を実施。
 平成29年度 河川整備工事 L=62.162m【平成30年繰越】 平成30年度 河川整備工事 L=10.0m【事故繰越】

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



護岸改修(石積み)した花川



改修した仁王橋

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
大寺城の調査・保全整備事業		☐ 実施済 ☐ 実施中 ☒ 未着手	

事業期間 令和元年度～令和5年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容

慧日寺の存在を背景に、宿駅として発展した大寺地区のにぎわいを取り戻すために、大寺城跡を整備、保存活用を図り、大寺地区と一体的に周遊できるよう整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

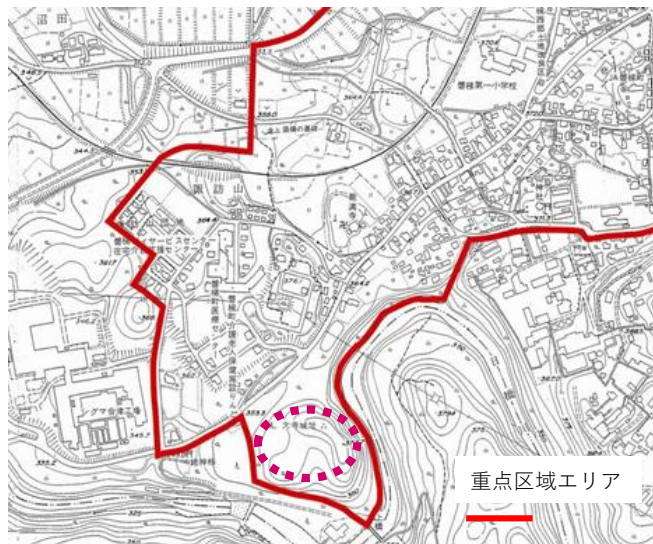
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☐計画どおり進捗している
☒計画どおり進捗していない

現在、大寺城跡は東京電力が所有する土地であり、今後の整備・保存活用を図るうえで協議が必要である。現時点で具体的な整備活用方針(協議)も決まっていない。

状況を示す写真や資料等



会津古城図



現在の大寺城跡

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
大寺地区歴史的風致保全事業		☐ 実施済 ☐ 実施中 ☒ 未着手	

事業期間 令和元年度～令和5年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容 大寺地区における宿駅としての歴史を体現する建造物、まちなみの保全、屋号等の案内板の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

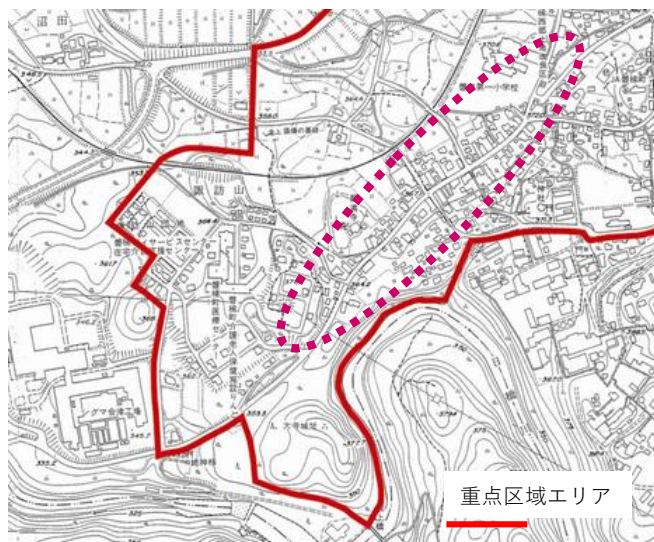
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☐計画どおり進捗している
☒計画どおり進捗していない

本寺地区を先行して着手しており、大寺地区住民への説明や合意形成に至っていない。

状況を示す写真や資料等



現在も掲げられている屋号



磐梯酒造の応接間

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
史跡慧日寺跡へのアプローチ整備事業		☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手	

事業期間 平成29年度～令和元年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容

史跡慧日寺跡、磐梯山慧日寺資料館、慧日寺参道へのアプローチを整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☐ 計画どおり進捗している
☒ 計画どおり進捗していない

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止となった。今後は感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していかなければならない。

状況を示す写真や資料等



令和元年度の史跡周辺および花壇整備の様子

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
大型バス迂回路整備事業		☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手	

事業期間 平成30年度～令和3年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容 慧日寺跡の史跡としての価値をできるだけ多くの人に知ってもらうため、大型観光バスの迂回路を標識等とあわせて整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和2年度に大型バス迂回場所隣接の一級河川大谷川護岸整備に併せ、大型バス迂回場所の整備設計を完了(296㎡)。整備工事を令和3年11月に完了。

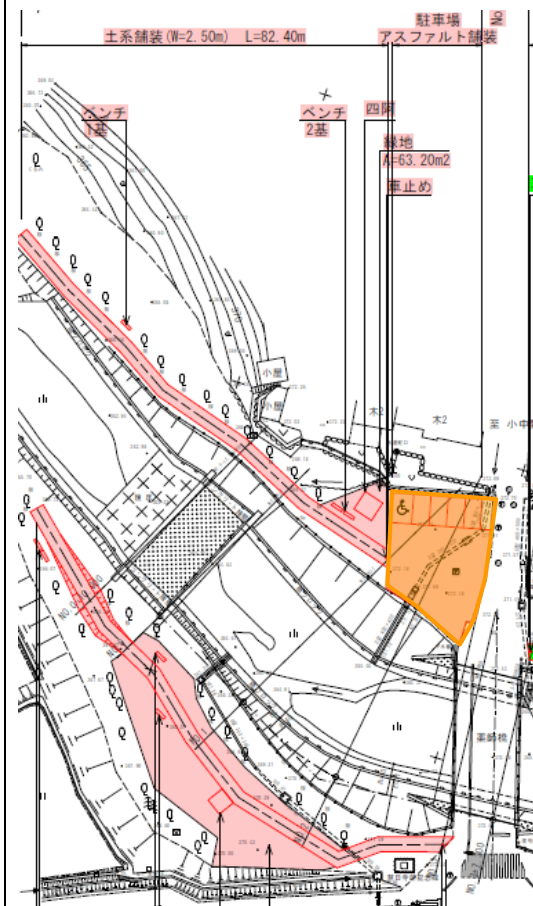
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒ 計画どおり進捗している
☐ 計画どおり進捗していない

現状では、大型バスも磐梯山慧日寺資料館駐車場に駐車しているが、参道整備にあわせて、車の乗り入れが制限されることから、参道整備にあわせて一体的な整備を検討する必要がある。

状況を示す写真や資料等



大型バス迂回場所整備平面図



大型バス迂回場所(整備前)



大型バス迂回場所(整備後)

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
磐梯山慧日寺資料館リニューアル事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	

事業期間 平成30年度～令和2年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載
している内容

慧日寺の文化的意義に関する情報発信、教育、学習基盤施設として、昭和62年8月に開館し、歴史まちづくりの拠点として大きな役割を果たしていることから、歴史文化の中核拠点として整備する。具体的には、映像を用いることにより、往時の門前町の雰囲気、徳一と最澄の論争等をイメージアップする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

現在の資料展示だけでなく、ITを活用した映像展示などにより施設の魅力を高めるため、VR展示を展開するための令和4年度に検討委員会を設置。令和6年度の展示公開を目指すもの。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

財政負担が課題となる。

状況を示す写真や資料等



現在の資料館【内観】

評価軸③-17

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
磐梯町の文化財を紹介する冊子とマップ作成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	

事業期間 平成29年度～令和7年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容

磐梯町に存在する様々な文化財に対する理解の深化や文化財に触れるきっかけ、保全・利活用に対する意識形成を促進するツールとして、文化財を紹介する新たな冊子と写真スポットや口コミ等、訪れる人の目線に立った読みたくなるマップを作成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和4年度 観光ガイドブックを最新情報に更新した。
印刷部数: 20,000部

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒ 計画どおり進捗している
☐ 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



観光ガイドブックを更新

評価軸③-18

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
			現在の状況
歴史を活かしたまちづくり推進事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成28年度～令和7年度

支援事業名

計画に記載している内容 歴史まちづくりに関する意識を高めるため、歴史まちづくりやまちなみ、景観形成について講演会や勉強会、研修、ワークショップを開催する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☐計画どおり進捗している
☒計画どおり進捗していない

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により開催には至らなかった。今後は感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していかなければならない。

状況を示す写真や資料等



令和元年9月歴史講座
 解説：磐梯山慧日寺資料館名誉館長



令和元年度ほとけづくりワークショップに参加したみなさん

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
歴史的風致紹介ガイド育成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成29年度～令和7年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	史跡慧日寺跡等を訪れた観光客等に対して、会津仏教文化の拠点として存在している磐梯町の歴史と魅力を的確に知らせることができるようにするため、地域の担い手となるガイドを育成する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
ボランティアガイド実績 平成29年度 5回(57名)・平成30年度 4回(83名)・令和元年度 4回(35名) ジオサイト・フィールド研修 令和元年度 2回(19名)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により開催には至らなかった。今後は感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していかなければならない。		
状況を示す写真や資料等			
 			
令和元年度ボランティアガイドによる説明の様子			

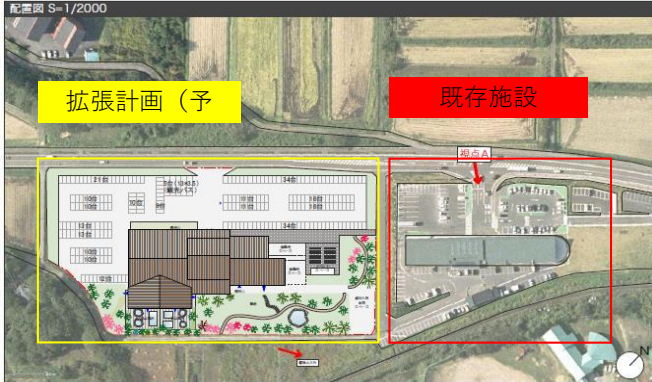
評価軸③-20

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
広域連携推進事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成28年度～令和7年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	仏都会津として豊富な歴史的文化的資源を擁する周辺地域との連携を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により開催には至らなかった。今後は感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していかなければならない。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-21

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
道の駅情報発信機能充実事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成30年度～令和4年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	慧日寺門前町の歴史に関する様々な情報を入手することができ、歴史に関心をもった町民や来訪者が交流することができる周遊の起点として、道の駅の情報発信機能の充実強化を図るとともに、史跡慧日寺跡と相互に連携できる一体的な地域空間を創出するための道の駅の拡張整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・史跡慧日寺跡などの歴史を詳しく知ることのできる展示スペースの整備 ・史跡慧日寺跡と連携した回遊性を高める機能の整備 ・町民、観光客が相互に交流でき、滞留時間を伸ばすための温浴施設を整備			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	基本構想を基に検討を行っている。		
状況を示す写真や資料等			
  拡張計画(予定)イメージ			

評価軸③-22

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
史跡慧日寺跡と道の駅ばんだいを連結するアクセス道の整備		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成30年度～令和5年度

支援事業名 町単独事業

計画に記載している内容 道の駅ばんだいから史跡慧日寺跡・磐梯山慧日寺資料館へのアクセスを改善するため、大谷川を横断する新しいアクセス道を整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

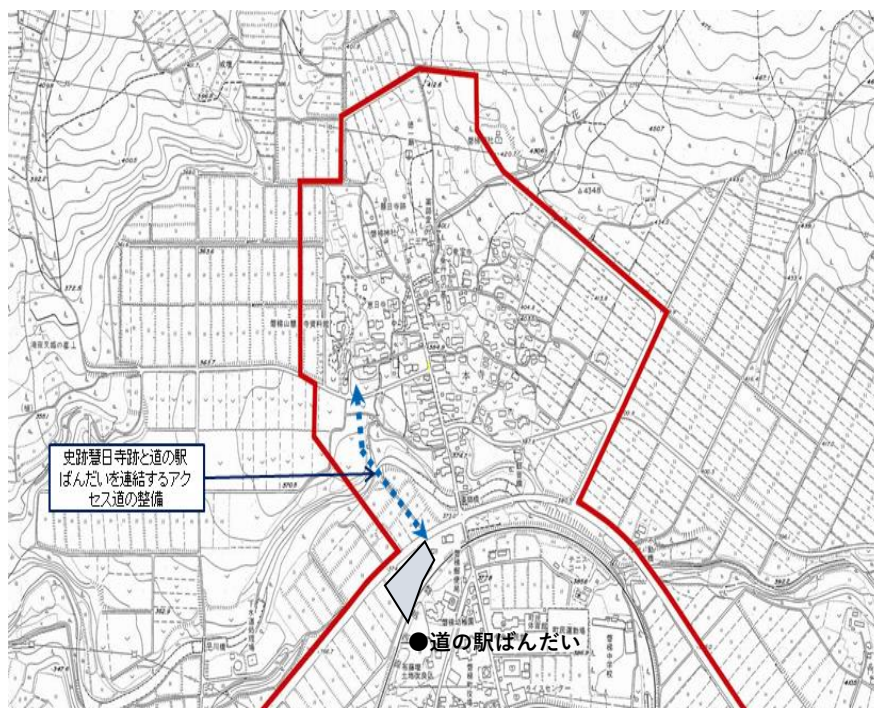
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

アクセス道の整備予定箇所には県道横断・第一種農地や一級河川等が存在するため、工法・用地取得を含めさらなる検討を要する。

状況を示す写真や資料等



評価軸③-23

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
歴史まちづくり推進機構の設立		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成29年度～令和5年度

支援事業名

計画に記載している内容

主要集客交流施設である史跡慧日寺跡・磐梯山慧日寺資料館、道の駅ばんだい周辺地域で、官民連携によるエリアマネジメントを実施する地区の一体的な管理運営組織として、「歴史まちづくり推進機構(仮称)」をまちづくり会社方式で設立する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

磐梯町の産業振興と地域経済の活性化、豊かな地域社会の実現のため、令和3年6月に「一般社団法人ばんだい振興公社」を設立。まちづくりの推進及び公共施設の管理・運営を主とし、現在「道の駅ばんだい」と「旧吉田家住宅」を運営を受託している。今後主要集客交流施設の一体的な管理運営を目指すもの。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

行政と連携する公益的民間組織として、設立の趣旨である「まちづくりの推進」のため、公共施設運営事業や観光関連事業の促進には、住民が主体となった活動を行政として支援できる体制づくりが必要である。

状況を示す写真や資料等

福島県磐梯町

「一般社団法人ばんだい振興公社」設立のお知らせ

～行政と連携し、愛着人口拡大による地域経済の活性化を促進～

設立日 2021年6月

福島県磐梯町(ばんだいまち)(町長:佐藤淳一、以下磐梯町)と、磐梯町商工会(会長:吉田長政)は、2021年6月22日に「一般社団法人ばんだい振興公社」(所在地:福島県磐梯町 代表理事:佐藤淳一)を設立しました。今後は、行政と連携しながら、まちづくり推進と、町民の福祉向上、地域経済の活性化を目指します。

設立の意図と経緯

ばんだい振興公社は、行政と連携する公益的民間組織です。磐梯町が掲げる「自分たちの子や孫が暮らし続けたい魅力あるまち」というビジョンを共に実現すべく、産業の振興と愛着人口*の拡大による地域経済の活性化を促進し、地域への還元・還流を繰り返しながら豊かな地域社会の実現を目指します。

設立当初は、ふるさと納税に関する業務を担います。ふるさと納税による寄附を募りながら、町内事業者が生産・製造する地場産品の魅力発信・商品開発等のマーケティング業務、受注管理、そして寄附金により実現した事業の発信を行います。

*愛着人口:磐梯町への来訪等の有無や町民であるかを問わず、磐梯町に対して好意を持ったり、温もりを感じたり、愛しんだりといった気持ちをもつ人をいう。ばんだい振興公社の造語。



ふるさと納税返礼品のイメージ

今後の展望

今後は、「道の駅ばんだい」や、慧日寺資料館周辺施設などの公共施設の運営事業も担っていく予定です。また、特産品開発事業や、観光関連事業、起業支援、移住定住事業など、産業の振興と愛着人口の拡大による地域経済の活性化につながる事業を展開し、豊かな地域社会の実現を目指します。



道の駅ばんだい

事業内容

<設立当初の事業>

ふるさと納税に関する業務

<今後において予定される事業>

道の駅ばんだい運営事業・公共施設運営事業(慧日寺資料館周辺施設等)・特産品開発事業・マーケティング事業・観光関連事業・人材投資・まちづくり活動サポート・起業支援・移住定住事業

法人の概要

名称 : 一般社団法人ばんだい振興公社

所在地 : 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字山道 311 番地 55 (※リオンモール磐梯店内)

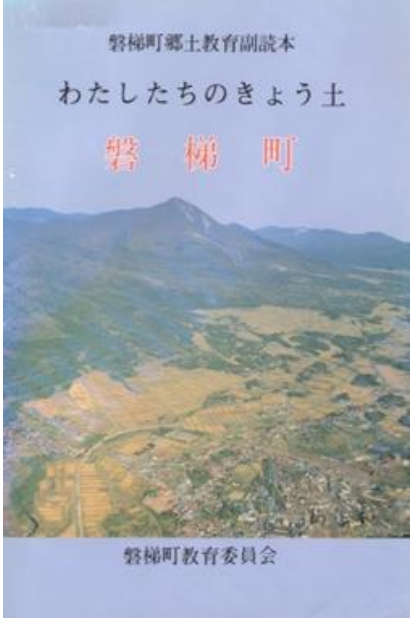
設立 : 2021年6月

代表理事: 佐藤淳一

ばんだい振興公社プレスリリース

評価軸③-24

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度 現在の状況
磐梯町歴史文化読本作成事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成29年度～令和4年度		
支援事業名			
計画に記載している内容	磐梯町の歴史や伝統の理解と生まれ育った郷土愛を育むため、副読本を作成する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
作成に向けた関係機関との協議			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	前回の副読本作成から20年以上経過しており、内容の見直しをどの程度まで実施するかが課題。(改訂増補とするか、内容を刷新するか。また、その場合の編さん組織をどのようにするかなど)教育関係との連携も不可欠である。		
状況を示す写真や資料等			
 副読本 『わたしたちの郷土』 平成5年(1993)作成 平成10年改訂			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
文化財の修復・整備に関する取組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 文化財の適切な維持管理に向けて、指定文化財の現状把握に努めるとともに、損傷具合等により優先順位を決めて修復・整備を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- 平成30年度、県指定重要無形民俗文化財「磐梯神社の舟引き祭りと巫女舞」
巫女舞にかかる囃子・巫女の装束を新調更新。
- 令和元年度、町指定民俗文化財「布藤山の神の獅子頭及び用具6点」のうち
今回、神楽面4枚を修復した。
- 令和2年度、町指定有形文化財「薬師堂」の経年劣化した外壁を修復した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- ☒計画どおり進捗している
- ☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



【修復前】



【修復後】

町指定有形文化財「薬師堂」

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
文化財の保存・活用を行うための施設に関する取組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 磐梯山慧日寺資料館や慧日寺跡金堂の周辺施設において、往時の雰囲気や、会津仏教文化を楽しみながら学べる施設として機能更新を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

○令和元年度、文化財の保存と活用を目的とし、町で改修した旧吉田家住宅が新たに観光交流拠点としてOPENした。
 ○平成30年度、金堂でのイベント等を継続していくため、県のサポート事業により、照明・音響・ベンチを購入した。
 ○平成28年度より磐梯町公衆無線LAN「BANDAI Free Wi-Fi」の運用開始
 (史跡慧日寺跡休憩施設・史跡慧日寺跡・磐梯山慧日寺資料館)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	旧吉田家住宅の一般開放は、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上での営業を行い、地域の歴史文化のPRを実施した。

状況を示す写真や資料等



平成31年4月20日にOPENした「徳一の里 庄九郎亭」

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
文化財の周辺環境の保全に関する取組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

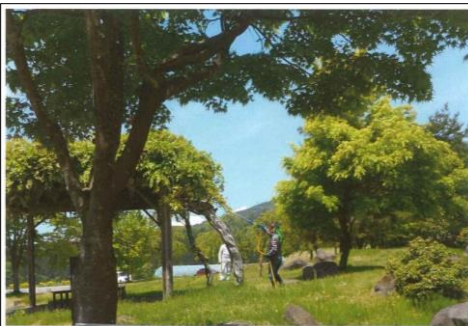
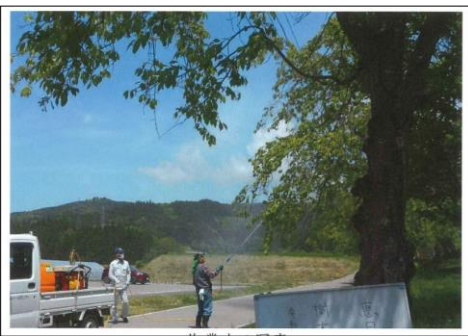
計画に記載している内容 空間の基盤を成す磐梯山麓の自然環境を確実に保全し、既存の良好な史跡景観を保全を推進するとともに、歴史的景観の復元に向けた魅力ある空間形成を推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

史跡慧日寺跡指定範囲内等の適切な草刈り及び樹木保全作業 A=9,400㎡

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



史跡内および文化財周辺の環境整備の様子

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
文化財の防災に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財を火災や地震等の災害から守り、後世に正しく引き継ぐために、定期的な見回りや火の後始末の確認などの日常管理の徹底について啓発するなど、町民の防火、防災意識の高揚を図り、地域ぐるみの防災体制の整備に努めるとともに、文化財の所有者に対しては、防災に係る周知と防災教育の取り組みを通して日常の防災意識の向上を促進する。 また、文化財の防犯体制については注意喚起等、適宜、文化財所有地区へ周知徹底している。現在、史跡慧日寺跡金堂内、防犯カメラ1基設置済。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
○猪苗代消防署磐梯出張所・磐梯町消防団及び文化財建造物管理者と連携した、防火査察の実施(恵日寺、金堂、仁王門、薬師寺、龍宝寺) ○町指定文化財自動火災報知機設備点検にかかる町補助(恵日寺、金堂、仁王門、薬師寺、龍宝寺)		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により放水訓練は中止とした。今後は感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していかなければならない。	
状況を示す写真や資料等		
【査察実施状況の写真】		
 龍宝寺・薬師堂の火報受信機の確認検査  龍宝寺不動堂堂内の立入検査  仁王門建物周りの確認検査  恵日寺本堂内の立入検査		

評価軸④-5

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する取組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 文化財に親しみを持ってもらうため、復元された金堂・中門を活用したイベントの活性化や、発掘体験、写生会など学校教育・生涯学習の場としての活用を推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和4年度磐梯山慧日寺資料館 企画展 『会津妖怪かわら版 第二版』7月23日～9月25日

復元された金堂・中門を活用した『鼓童公演』10月8日

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



「会津妖怪かわら版 第二版」



「史跡慧日寺跡 鼓童公演」

評価軸④-6

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
埋蔵文化財の取扱いに関する取組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	史跡の発掘を推進するとともに、発掘体験の場の提供等を通じて埋蔵文化財の重要性の啓発を推進する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、埋蔵文化財発掘調査は実施しなかった。	
状況を示す写真や資料等		

評価軸④-7

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
住民、NPO等各種団体の状況及び今後の体制整備の取組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財の保存・活用に向けた取り組みの推進やNPOなどの団体設立について助言・指導を進めていき、活動に対する支援を行う等、住民やこれらの団体等と連携して文化財の保存・活用に努める。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
舟引き祭り実行委員会主催の「県指定文化財 舟引き祭りと巫女舞」挙行の際の活動に対する支援を実施。(巫女舞児童、囃子楽人の会場への送迎等)		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、各種民俗文化財は開催されなかった。今後は感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していかなければならない。	
状況を示す写真や資料等		

項目		評価対象年度	令和4年度
史跡慧日寺跡を活用したイベントの実施			
計画に記載している内容	文化財に親しみを持ってもらうため、復元された金堂・中門を活用したイベントの活性化や、発掘体験、写生会など学校教育・生涯学習の場としての活用を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付			
・磐梯山慧日寺ライトアップ「月待ちの灯り」 令和4年6月11日(土)・12日(日) ・秋の演奏会「鼓童」 令和4年10月8日(土)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし		例年史跡慧日寺跡を活用したイベントを多数開催していたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症のため、三密対策を施し最低限のイベント開催とした。今後は感染症対策を十分に検討し、取り組みを推進していかなければならない。	
状況を示す写真や資料等			
  月待ちの灯り   秋の演奏会「鼓童」			

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和4年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 第11回磐梯町歴史的風致維持向上計画推進協議会	
令和5年7月開催予定	
(今後の対応方針)	